

社会学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
社会学概論	現代社会の諸相	2	小松 丈晃	3	前期 水曜日 4講時	
社会学概論	社会学の視点と方法	2	青木 聡子	4	後期 火曜日 3講時	
社会学基礎演習	エスノグラフィー講読入門	2	高橋 知花	3	前期 月曜日 4講時	
社会学基礎演習	質的社会調査入門	2	田代 志門	3	前期 木曜日 2講時	
社会学基礎演習	社会学の基礎概念としての「社会構造」	2	菅原 謙	4	後期 火曜日 2講時	
社会学基礎演習	コミュニケーション行為の理論	2	永井 彰	4	後期 水曜日 4講時	
社会学各論	環境社会学の理論と実践	2	青木 聡子	5	前期 火曜日 5講時	
社会学各論	質的研究概論	2	徳川 直人	5	前期 水曜日 3講時	
社会学各論	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	6	後期 火曜日 4講時	
社会学各論	日本の思想遺産・主婦論争を読む	2	妙木 忍	6	後期 水曜日 2講時	
社会学各論	死と死にゆくことの社会学	2	田代 志門	6	後期 水曜日 4講時	
社会学各論	ハーバーマスの社会理論	2	永井 彰	6	後期 木曜日 2講時	
社会学各論	ディスコース社会学の基礎と実践	2	佐藤 哲彦	集中	集中講義	
社会学演習	リスクと不確実性の社会学	2	小松 丈晃	5	前期 火曜日 2講時	
社会学演習	病いの語り研究の可能性	2	田代 志門	5	前期 水曜日 2講時	
社会学演習	記憶継承の社会学	2	青木 聡子	6	後期 火曜日 5講時	
社会学実習	社会調査実習	2	青木 聡子	5	前期 金曜日 3講時 前期 金曜日 4講時	
社会学実習	社会調査実習Ⅱ	2	青木 聡子	6	後期 金曜日 3講時 後期 金曜日 4講時	

科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB33401, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代社会の諸相

2. Course Title (授業題目) : The Defining Characteristics of Modern Society

3. 授業の目的と概要：U. ベックによれば、社会学には、(1) 理論研究、(2) 経験的研究およびそれによる理論の吟味、そして(3) 時代診断という三つの課題があるとされる。社会学者たちは、みずからの生きる近現代社会をどんな社会として時代診断し、理論化し、検証してきたのだろうか。この授業の目的は、社会学的な現代社会論をいくつか取り上げながら、現代社会の構造と変動をマクロな視点から考察し、また同時に、そこで生きる個々人のライフコースの変容について検討することである。授業の前半では、主に、近代化論とその問題について考える。授業の後半では、現代社会のさまざまな特徴に焦点を当てた現代社会論を取り上げ、その議論が私たちの生活にとって有する意味について検討する。最後に、エネルギー問題や廃棄物、社会的排除を取り上げ、現代社会の「オフショア化」(J. アーリ) の見本例として考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This is a lecture-centered course.

According to Ulrich Beck, a well known German sociologist, Sociology must carry out the three basic tasks; (1) theoretical investigations, (2) empirical researches and (3) diagnosis of the times. How the sociologists have "diagnosed" the modern societies and theorized? In this course, we will review the various theories of modern society and discuss the basic structures of modern society and its changes. In the first half of the course, we will mainly consider modernization theories and their limitations. In the second half of the course, we will take up the theories of contemporary society, which focus on various characteristics of our nowadays world, and examine the meaning of these discussions for our lives. Finally, we take up energy problems, waste issues, and social exclusion as examples of the "offshoring" (J. Urry) in society today.

5. 学習の到達目標：・現代社会の構造やその変動について理解できるようになる
・それぞれの現代社会論の特徴と課題について学ぶ

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course is designed to help students (1) understand the structures of modern society and their changes and (2) recognize the features and problems of modern social theories.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1・オリエンテーション
- 2・社会の「機能分化」論の系譜 (1)
- 3・社会の「機能分化」論の系譜 (2)
- 4・近代化論の限界と世界システム論・従属理論の視角 (1)
- 5・近代化論の限界と世界システム論・従属理論の視角 (2)
- 6・再帰的近代化論とリスク社会論 (1)
- 7・再帰的近代化論とリスク社会論 (2)
- 8・グローバリゼーション
- 9・マクドナルド化する現代
- 10・消費社会のゆくえ
- 11・監視のテクノロジーと社会
- 12・廃棄物とエネルギー問題の社会学
- 13・社会的排除と包摂
- 14・オフショア化する世界—不可視化の諸相—
- 15・まとめ

8. 成績評価方法：

講義終了後のミニットペーパーへの記入内容 50% + (中間・期末) レポート 50% で評価する

9. 教科書および参考書：

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2019, 『【新版】社会学』有斐閣
その他、トピックに応じて参考文献を授業の中で指示する

10. 授業時間外学習：適宜、授業において、次回までに自宅で行うべき学習課題を出します。

また、授業時間外の資料収集に基づく中間レポートも提出してもらう予定です。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

受講者があまりにも多い場合には、受講制限を行うことがある。

資料の配付等は、Google Classroom を通じて行う。

オンライン授業は行わず、すべて「対面」で実施する。

科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB42302, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会学の視点と方法

2. Course Title (授業題目)：Sociological perspectives and methods

3. 授業の目的と概要：こんにち私たちは高度に複雑化した社会に生きており、社会の全体像を見渡すことが非常に困難になっている。こうした状況下では、個人の行為が思わぬところに影響を与えることもありうる。「社会学」では、自分たちが生きている社会の全体像を理解しようとする試みが、先人たちの手によって取り組まれてきた。この授業の目的は、そのような先人の知恵を借りて、私たち「自身の身近な現実を全体の社会的現実とのつながりのなかで理解する資質」＝「社会学的想像力」を養うことである。そのために、この授業では、グループワークをおこない、様々な具体的なトピックについて、自身で問いを立て、調べ、考察する力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Today, we live in a highly complex society, making it extremely difficult to see the overall picture of society. Under these circumstances, individual actions can have unexpected effects. In sociology, our predecessors have attempted to understand the overall picture of the society in which we live. The purpose of this class is to borrow the wisdom of our predecessors to cultivate our "sociological imagination," which is the ability to understand one's own familiar reality in the context of the overall social reality. To that end, in this class, we will engage in group work to acquire the ability to ask, investigate, and consider a variety of specific topics on your own.

5. 学習の到達目標：社会学の視点や方法を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this class is to understand the perspectives and methods of sociology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODクシヨン——授業の進め方について
- 2 社会学とは何か
- 3 日常生活を問う社会学(1)——自分と他者の関係を考える
- 4 日常生活を問う社会学(2)——家族を考える
- 5 日常生活を問う社会学(3)——福祉や教育を考える
- 6 日常生活を問う社会学(4)——地域社会を考える
- 7 日常生活を問う社会学(5)——働くことを考える
- 8 身近な文化を問う社会学(1)——文化とは何か？
- 9 身近な文化を問う社会学(2)——メディアを考える
- 10 身近な文化を問う社会学(3)——ジェンダーとセクシュアリティを考える
- 11 身近な文化を問う社会学(4)——エスニスティを考える
- 12 社会問題の社会学(1)——社会問題はいかに社会問題になるのか
- 13 社会問題の社会学(2)——格差を考える
- 14 社会問題の社会学(3)——環境問題を考える
- 15 社会問題の社会学(4)——社会運動を考える

8. 成績評価方法：

授業への参加と課題 50%、期末レポート 50%

9. 教科書および参考書：

工藤保則・大山小夜・笠井賢紀編，2017、『基礎ゼミ社会学』世界思想社。

10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初回は必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合には、事前にメールで連絡をください。

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：高橋 知花

コード：LB31401, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：エスノグラフィー講読入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Reading Ethnography

3. 授業の目的と概要：この授業では、エスノグラフィーの講読を通じ、エスノグラフィーの手法とはどのようなものか、質的社会調査で得られたデータがどのように分析、考察され一つの研究作品になるかを学びます。エスノグラフィーの代表的研究である、『ローカルボクサーと貧困世界』を取り上げ、ローカルボクサーたちが生きる社会と貧困とを結びつけて読み解きます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course helps students understand how to read ethnography and think about the relationship between poverty and society.

5. 学習の到達目標：ローカルボクサーの生きる社会と貧困とのつながりを読み解き、エスノグラフィーにおける調査と理論との関係性を理解する力を身につける。また、過不足のないレジюмеを作成できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the relationship between the society in which local boxers live and poverty and the relationship between theory and research. Students also acquire the skills to write a resume.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ローカルボクサーと貧困 (1)
3. ローカルボクサーと貧困 (2)
4. ボクサーになる (1)
5. ボクサーになる (2)
6. ボクサーになる (3)
7. 敗者の生産 (1)
8. 敗者の生産 (2)
9. 敗者の生産 (3)
10. 敗者の生産 (4)
11. 引退ボクサーの日常 (1)
12. 引退ボクサーの日常 (2)
13. 引退ボクサーの日常 (3)
14. 引退ボクサーの日常 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加（報告、ディスカッション）40%、課題レポート 60%

9. 教科書および参考書：

石岡丈昇『ローカルボクサーと貧困世界—マニラのボクシングジムにみる身体文化』（世界思想社、2012 年）

10. 授業時間外学習：各回レジюме担当を決め、レジюмеの作成と報告をしてもらいます。各回担当者だけではなく、参加者全員が教科書の該当箇所を事前に読み、授業での議論に参加できるよう準備しておく必要があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は必ず初回に出席してください。出席できない場合には事前に連絡してください。

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB34203, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的社会調査入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to qualitative social research
3. 授業の目的と概要：様々な質的研究法の概要を理解するとともに、それらの方法論に基づいて執筆された論文の精読を行うことを通じて質的社会調査の実際を学ぶ。なお、受講生には授業で学んだことを活かして文献検索等を行い、先行研究の検討を通じて自らの研究テーマを掘り下げることが期待される。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of qualitative social research methods.
5. 学習の到達目標：(1) 質的研究法の特徴を理解できるようになる
(2) 質的社会調査に基づく研究成果を批判的に読むことができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is that students understand how to collect and analyze qualitative data based on different methods.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 演習の進め方について
 - 2 質的研究とは何か
 - 3 質的研究におけるデータ収集
 - 4 フィールドワーク (1)
 - 5 フィールドワーク (2)
 - 6 参与観察 (1)
 - 7 参与観察 (2)
 - 8 生活史 (1)
 - 9 生活史 (2)
 - 10 中間まとめ
 - 11 質的研究の実例を読む (1)
 - 12 質的研究の実例を読む (2)
 - 13 質的研究の実例を読む (3)
 - 14 質的研究の実例を読む (4)
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%
9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』(有斐閣、2016 年)
10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学基礎演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：菅原 謙

コード：LB42207, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会学の基礎概念としての「社会構造」
2. Course Title (授業題目)：“Social Structure” as a Basic Concept of Sociology
3. 授業の目的と概要：この授業には、ふたつの目的があります。ひとつは、社会学の基礎概念のひとつである「社会構造」に習熟することです。もうひとつは、テキストを文法的に正しく、かつ論理的・批判的・分析的に読解することを通じて、外国語文献の精読を厭わぬ態度を身につけることです。上記の目的を踏まえ、日本語による4回の導入的講義に引き続き、指定されたテキストを輪読します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course has two objectives. One is to help students acquire a detailed knowledge of “social structure,” which is one of the basic concepts in sociology. The other is to help students develop an attitude of being willing to peruse foreign language literatures, which is fostered through reading a text grammatically, logically, critically and analytically. For these objectives, following the four introductory lectures, the designated text will be read in turns.
5. 学習の到達目標：(1)「社会構造」概念について詳細に説明することができる
(2)「社会構造」概念に関連した他の基礎概念について説明することができる
(3)テキストの精読によって可能となる精確な訳文を作成することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to
(1) be able to explicate the concept of “social structure,”
(2) be able to explain other basic concepts related to the concept of “social structure,”
(3) be able to provide accurate translations made possible by perusing
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：講義（概念／言明／理論）
第2回：講義（記述と説明）
第3回：講義（根拠と帰結）
第4回：講義（システム／構造／要素）
第5回～第15回：講読
8. 成績評価方法：
平常点（30%）、期末レポート（70%）および授業への貢献を考慮する
9. 教科書および参考書：
López, José and Scott, John (2000) Social Structure, Buckingham/Philadelphia: Open University Press.
10. 授業時間外学習：指定された範囲までテキストを読んでくること。報告分担者は訳文を作成すること。
Students are required to read the text up to the specified range, and translate it alternately.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LB43404, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コミュニケーション行為の理論

2. Course Title (授業題目)：The theory of Communicative Action

3. 授業の目的と概要：ドイツの社会学者・哲学者ユルゲン・ハーバーマスの『コミュニケーション行為の理論』をドイツ語原文で精読する。

学術論文をドイツ語で精読する方法を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students will closely read German sociologist and philosopher Jürgen Habermas' "Theory of communicative action" in the original German text.

In this class, students will learn how to do a close reading of academic articles in German.

5. 学習の到達目標：1) ドイツ語で学術論文を読解できる能力を獲得する。

2) 学術論文を精読するとはどのようなことなのかを理解できるようになる。

3) コミュニケーション行為理論の基本的な考え方を理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1) Students will acquire the ability to read and understand academic articles in German.

2) Students will be able to understand what it means to read academic articles closely.

3) Students will be able to understand the basic ideas of the theory of comm

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) イントロダクション

2) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 1 回)

3) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 2 回)

4) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 3 回)

5) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 4 回)

6) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 5 回)

7) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 6 回)

8) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 7 回)

9) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 8 回)

10) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 9 回)

11) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 10 回)

12) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 11 回)

13) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 12 回)

14) Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns の精読 (第 13 回)

15) まとめと討論

8. 成績評価方法：

評価は、平常点 (毎回の訳文作成) による。

9. 教科書および参考書：

Jürgen Habermas, Theorie des kommunikativen Handelns, Band 1: Handlungsrationalität und gesellschaftliche Rationalisierung; Band 2: Zur Kritik der funktionalistischen Vernunft, Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1981.

10. 授業時間外学習：授業前に、各自、訳文を作成する。

授業後、授業での検討をふまえて、各自、訳文を再点検する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

ドイツ語学習 (文献読解) のために、社会学専修以外の学生の履修を歓迎する。

ドイツ語をこれから学ぼうとする学生の履修も受け付ける。初級文法を独習する必要があるなど、自主的な努力が必要になるが、1 回に進む分量が限定されているので、ドイツ語の初学者にとっても決して無理な内容ではない。参考書を提示するなど、ドイツ度文献読解法について助言をおこなう。ただし、履修にあたっては、ハーバーマスに限定されなくてもよいが、社会学理論に関心があることが望ましい。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB52502, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境社会学の理論と実践

2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of environmental sociology

3. 授業の目的と概要：環境社会学の課題は、環境問題のメカニズムの解明や自然環境の保全の方法を探ることにとどまらない。歴史的環境（街並みや景観）、食と農、震災復興、科学技術とリスク、ツーリズムなど、さまざまな対象を扱ってきた。この授業では、それらさまざまな環境社会学の研究に学び、環境社会学の理論と方法を理解することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The challenges of environmental sociology are not limited to elucidating the mechanisms of environmental problems and finding ways to conserve the natural environment. It has dealt with a variety of subjects, including the historical environment (cityscapes and landscapes), food and agriculture, disaster recovery, science and technology and risks, and tourism. The purpose of this class is to understand the perspectives and analytical methods of environmental sociology while covering various environmental sociology studies.

5. 学習の到達目標：環境社会学の理論と方法を理解し、さまざまな対象に応用する考え方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this class is for students to understand the theories and methods of environmental sociology and acquire ways of thinking that can be applied to a variety of subjects.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション——環境社会学とは何か？
- 2 環境社会学の理論(1)——被害・加害構造論①
- 3 環境社会学の理論(2)——被害・加害構造論②
- 4 環境社会学の理論(3)——受益圏・受苦圏論①
- 5 環境社会学の理論(4)——受益圏・受苦圏論②
- 6 環境社会学の理論(5)——社会的ジレンマ論①
- 7 環境社会学の理論(6)——社会的ジレンマ論②
- 8 中間のまとめ
- 9 環境社会学の方法(1)——災害をとらえる
- 10 環境社会学の方法(2)——震災復興をとらえる
- 11 環境社会学の方法(3)——食と農をとらえる
- 12 環境社会学の方法(4)——街並みや景観をとらえる
- 13 環境社会学の方法(5)——合意形成を考える
- 14 環境社会学の方法(6)——NPO／ボランティアを考える
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%

9. 教科書および参考書：

テキスト：時間ごとに文献を指定します。

参考書：授業の際に適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初回には必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

semester：5 単位数：2

担当教員：徳川 直人

コード：LB53303, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的研究概論
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Qualitative Inquiry in Sociology
3. 授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について学ぶ。参加者は教材を読み、資料収集や日常観察などの実践を試みることで、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn some methods and theories in sociological qualitative inquiry in introductory lectures, and understand them through reading texts, and some practice of documents collection and observation in everyday life.
5. 学習の到達目標：1) 質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界が理解できるようになる。
2) フィールドワークやインタビューを初歩的な形で実践できる基礎素養が身につく。
3) 調査のモラルと倫理、責任について考慮できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)： Through this course students will become able to 1) understand fundamental methods and theories of qualitative inquiry with their significance and limits, 2) acquire background knowledge to conduct some fieldwork or interview in elementary form, and 3) c
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。
 1. 質的分析法入門
 2. 感受概念
 3. 方法としてのフィールドノート
 4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
 5. 聞き書き
 6. インタビュー
 7. 自然主義的観察
 8. 参与観察
 9. グラウンデッドな接近法
 10. エスノメソドロジー
 11. エスノグラフィー
 12. 事例分析とモノグラフ
 13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
 14. アクション・リサーチ
 15. 調査倫理
8. 成績評価方法：
平常点(50%)と学期末レポート(50%)を総合的に加味して評価する。
9. 教科書および参考書：
エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998)など複数を教室にて指示する。
また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。
Books and papers will be introduced in class, such as Writing Ethnographic Fieldnotes by Emerson et.al.(1995), Dictionary of Qualitative Inqu
10. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。
Students are required preparatory readings and some home works.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB62406, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目) : Sociology of Risk and Ignorance

3. 授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学論「第三の波」等、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学的専門知の有り様について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知(想定外)の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This is a lecture-centered course.

We need to prepare against the risk of complex disasters in which the natural disaster and technological crisis occur simultaneously. This course is designed to help students understand the outline of sociological risk theories and gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks that face us. First, the sociological risk theories are reviewed. Then the public's confidence in science and the responsibility of the experts will be discussed. Finally, we consider the distorted relationship between risk, trust(or confidence) and ignorance and the critical problems resulting from this relationship.

5. 学習の到達目標：・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course is designed to help students gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会学再訪—U. ベックの社会学理論の検討—
3. 社会システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論とその影響
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスク社会と信頼 (1)
8. リスク社会と信頼 (2)
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業終了後のミニットペーパーへの記入内容と平常点 40%+レポート提出 60%で評価

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、参考にすべき文献を適宜指示します。

10. 授業時間外学習：授業において、適宜、自宅で行うべき学習課題を出す予定です。

授業時間外での資料収集に基づいた中間レポートも提出してもら予定です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：妙木 忍

コード：LB63205, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む
2. Course Title (授業題目)：Japan's heritage of thought: Reading the Housewife Controversy
3. 授業の目的と概要：本授業では、フェミニズムの歴史を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライフコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。さらに、東大祝辞（2019 年）を読み解くことを通して、日本におけるジェンダー問題を把握し、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにしていきたいかを主体的に考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to give an overview of the history of feminism and interpret the Housewife Controversy, part of Japan's heritage of thought. It also aims to analyze social mechanisms such as why the controversy revolved around women despite also concerning men and wider society, and why controversy regarding women's choice of life course continues even as the era and talking points change. Furthermore, through a reading of Chizuko Ueno's 2019 Matriculation Ceremony Congratulatory Address at the University of Tokyo, this course will help students grasp social problems in Japan from the perspective of gender, and explore how we can take independent action to change society.
5. 学習の到達目標：フェミニズムの歴史について理解する。
ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the history of feminism. It also aims to consider social problems from the perspective of gender. Furthermore, it is intended to help students think about issues of concern to them, to pose their own
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。内容および進度は以下の通りである。

第1回 イン트로ダクション
第2回 フェミニズムの歴史
第3回 ジェンダー研究の展開
第4回 家族の戦後体制
第5回 労働とジェンダー（統計データを読む）
第6回 主婦論争とは何か
第7回 第1次・第2次・第3次主婦論争
第8回 第4次主婦論争
第9回 第5次主婦論争
第10回 第6次主婦論争
第11回 主婦論争の通時的分析、日本におけるジェンダー規範の変容
第12回 発表と討論①
第13回 発表と討論②
第14回 東大祝辞（2019 年）を読む
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
授業への関与度（15%）、レスポンス・カードの提出（15%）、宿題（20%）、発表（20%）、レポート（30%）
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。レジュメを配布する。参考文献は適宜紹介する。
No textbook will be used. Handouts will be provided at every class. Reference materials will be introduced as necessary.
10. 授業時間外学習：授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。
Students are required to prepare and review for each class. Assignments may be given, and preparation for a presentation and an essay will also be required.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。

Students will be requested to complete a response card at the end of each class.

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB63401, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of death and dying

3. 授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、主に終末期医療に関わる様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。なお、受講生には授業で学んだことを活かして死に関わる興味深い現象を自ら見出し、その背景や意味について考察することが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of ethical and legal issues in end-of-life care in contemporary Japan from a sociological perspective.

5. 学習の到達目標：終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is to encourage students to think about issues of death and dying from a sociological perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死 (1)
3. 現代社会における死 (2)
4. 「死ぬ権利」の社会学 (1)
5. 「死ぬ権利」の社会学 (2)
6. 中間まとめ
7. 終末期ケアの社会学 (1)
8. 終末期ケアの社会学 (2)
9. 終末期ケアの社会学 (3)
10. 死生観の社会学 (1)
11. 死生観の社会学 (2)
12. 死生観の社会学 (3)
13. 死と死にゆくことの現在 (1)
14. 死と死にゆくことの現在 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

田代志門『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』（世界思想社、2016 年）

浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也編『現代日本の「看取り文化」を構想する』（東京大学出版会、2022 年）

トニー・ウォルター『いま死の意味とは』（岩波書店、2020 年）

10. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LB64202, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ハーバーマスの社会理論
2. Course Title (授業題目)：Social Theory of J. Habermas
3. 授業の目的と概要：ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of the logic of the social theory of Habermas, to help students learn about sociological concepts and theory.
5. 学習の到達目標：ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help understand the logic of the social theory of Habermas.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ハーバーマス研究の視座と方法
 3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
 4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
 5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
 6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
 7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
 8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
 9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
 10. コミュニケーション行為概念の再規定
 11. 生活世界論の再構成
 12. 生活世界とシステム
 13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
 14. 再構成的社会学の可能性
 15. 講義のまとめ
8. 成績評価方法：

(○) リポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]
9. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。
10. 授業時間外学習：授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。
授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 その他

Semester：0 単位数：2

担当教員：佐藤 哲彦

コード：LB98820, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ディスコース社会学の基礎と実践
2. Course Title (授業題目)：Fundamentals and Practice of Discursive Sociology
3. 授業の目的と概要：この授業は「ディスコース社会学」と呼ぶる社会学的研究について論じるものである。ここでいう「ディスコース社会学」とは、質的調査の結果として得られたインタビュー・データや観察結果を用いて社会的な研究を成り立たせるための方法と、その方法から得られる知見によって形作られるものである。調査を行ってデータを得たからといって、それを理論や命題に「当てはめる」ということでは、社会的な研究は成り立たないし、そもそもそれが誤っていることもしばしばである。そこで、それらのデータを社会的な視点から眺め、そのデータで観察される現象を社会的に明らかにすることによって初めて、その対象を社会的に記述することが出来る。そのさいに踏まえておくことが必要な言語に着目した「分析をめぐる基礎的な考え方」や、それをもとにした「具体的な分析方法」について論じるのが、この授業である。これは、社会学理論や社会的命題の現れとして現実を考えるのではなく、むしろ現実から始めて社会的思考を成り立たせるという、質的研究にとって中心的な作業ともいえるだろう。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course discusses a sociological study that can be called "Discursive sociology". "Discourse sociology" refers both to the methods used to conduct sociological research using interview data and observations obtained as a result of qualitative research, and to the findings obtained from these methods. We often fit the data obtained through qualitative research into a theory or proposition. However it is not sociological research works and the insights obtained sometimes are fault. Therefore, we can only describe the subject sociologically by looking at the data from a sociological perspective and clarifying the phenomena observed in the data from a sociological perspective. In this class, we will discuss the "basic ideas of analysis" focusing on language and "specific methods of analysis" based on these ideas, which are necessary to be taken into account in this process. This is a central task for qualitative research, which does not consider reality as a manifestation of sociological theory or sociological propositions, but rather starts from reality to establish sociological thinking.
5. 学習の到達目標：この授業で講じる基礎と実践を通して、受講生が自分で得たデータや既存のデータを社会的に眺められるようになり、社会的分析の入り口に立たせるのが、この授業の目的である。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose and the aim of this class is to help students to view their own and existing data in the sociological ways through the fundamentals and practices taught in this class, and to get them to the point of entry into a sociological analysis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 質的調査と質的分析
 2. 社会学的方法と社会学的分析
 3. 言語に着目することの意義と課題
 4. ディスコース分析の基礎 (1) シークエンス
 5. ディスコース分析の基礎 (2) レリバンスとカテゴリー
 6. ディスコース分析の実践 (1) 構築プロセスの分析
 7. ディスコース分析の実践 (2) レパトワール分析
 8. 参与観察データの観察 (1) エスノグラフィーにおけるカテゴリー実践
 9. 参与観察データの観察 (2) 記述をめぐる問題
 10. インタビューデータの分析 (1) 記述をめぐる問題
 11. インタビューデータの分析 (2) シークエンスを観察する
 12. インタビューデータの分析 (3) インタビューにおけるカテゴリー実践
 13. ディスコース分析から社会的思考へ
 14. ディスコース社会学というプロジェクトの意義
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業中の課題の提出と最終レポート
9. 教科書および参考書：

フランシス&ヘスター, 2014, 中河他訳 『エスノメソドロジーへの招待：言語・社会・相互行為』, ナカニシヤ出版/ウーフ
イト, 1998, 大橋他訳『人は不思議な体験をどう語るか：体験記憶のサイエンス』, 大修館書店/シルバーマン, 2020,
渡辺忠温訳『良質な質的研究のための、かなり挑発的でとても実践的な本』, 新曜社/山田富秋, 2020, 『生きられた経
験の社会学：当事者性・スティグマ・歴史』, せりか書房/ギリバート&マルケイ, 1990, 柴田・岩坪訳『科学理論の現
象学』, 紀伊国屋書店/
10. 授業時間外学習：最終レポートに使用するために、自分の関心のあるデータを探索・収集しておいてください。それは必ずしも自分自身の調査である必要はなく、YouTube などでも構いませんし、出版された手記などでも構いません。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB52207, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと不確実性の社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of Risk and Uncertainty

3. 授業の目的と概要：不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つとなっている。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会的にいかにか論じるかを探ってみたい。とくに、いわゆる「リスク社会」論では相対的に見過ごされてきたジェンダーとリスクとの関連について、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Risk” and “uncertainty” are treated as the basic concepts of sociology today. Those are related to the various subjects such as disaster, environmental problem, crime, and technological crisis. In this course, we will discuss the way to describe the modern society which has become a “risk society” through doing a close and careful examination of the text. Particularly, we will discuss the relationship between gender and risks, which has been somewhat overlooked in so-called “risk society” theory.

5. 学習の到達目標：・社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する

・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ

・ジェンダーとリスクとの関連を捉えるための視角を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goals of the course are:

(1)Students will develop the reading skills to understand the sociological English texts

(2)Student will find a clue for addressing the problem of risk and uncertainty sociologically.

(3)Students will be able to develop

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. リスク論の社会(科)学的基礎

3. リスクと社会理論

4. ジェンダー化されたリスクの視点(1)

5. ジェンダー化されたリスクの視点(2)

6. ジェンダー化されたリスクの視点(3)

7. ジェンダー化されたリスクの視点(4)

8. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(1)

9. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(2)

10. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(3)

11. リスク、エッジワーク、マスキュリニティ(4)

12. 犯罪のリスクとジェンダー(1)

13. 犯罪のリスクとジェンダー(2)

14. 犯罪のリスクとジェンダー(3)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点50%と提出レポート50%による。

9. 教科書および参考書：

Kelly Hannah-Moffat and Pat O’Malley(eds.), 2007, “Gendered Risks”, Routledge-Cavendish

J. O. Zinn, 2008, “Social Theories of Risk and Uncertainty”, Blackwell.

10. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト(英語)を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：病いの語り研究の可能性
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Illness Narrative Research
3. 授業の目的と概要：病いの語り (illness narrative) 研究とは、主に社会学と人類学において 1980 年代以降に発展してきた患者経験の研究の総称である。その焦点は、病いや痛み、苦悩の経験を言葉によって意味づけていく側面に着目しつつ、本人が自らの病いをどのように捉え、それにどう対処しようとしているのかを明らかにすることにある。本講義では病いの語り研究の古典の一つであるアーサー・W・フランクの『傷ついた物語の語り手——身体・病い・倫理』を取り上げ、その後の論争や関係する経験的研究を検討しつつ、その可能性と課題を検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of illness narrative research, focusing on the work of Arthur W. Frank.
5. 学習の到達目標：(1) 『傷ついた物語の語り手』の内容を精確に理解する
(2) 病いの語り研究の課題を明確化し、新たな可能性を探る
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is for students to understand the sociological concept of stigma and its application.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 演習の進め方について
 2. 病いの語り研究とは
 3. 『傷ついた物語の語り手』を読む (1)
 4. 『傷ついた物語の語り手』を読む (2)
 5. 『傷ついた物語の語り手』を読む (3)
 6. 『傷ついた物語の語り手』を読む (4)
 7. 『傷ついた物語の語り手』を読む (5)
 8. 『傷ついた物語の語り手』を読む (6)
 9. 『傷ついた物語の語り手』を読む (7)
 10. 『傷ついた物語の語り手』を読む (8)
 11. 中間まとめ
 12. 病いの語り研究に関する論争 (1)
 13. 病いの語り研究に関する論争 (2)
 14. 経験的研究の展開 (1)
 15. 経験的研究の展開 (2)
8. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%
9. 教科書および参考書：

Arthur W. Frank, The Wounded Storyteller: Body, Illness, and Ethics, The University of Chicago Press, 1995 (『傷ついた物語の語り手——身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002 年)
10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB62505, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：記憶継承の社会学
2. Course Title (授業題目)：Sociology of memory inheritance
3. 授業の目的と概要：戦争、災害、差別など、一般的にネガティブな感情をともなう記憶（＝いわゆる「負の記憶」）に、人びとはいかに集合的に向き合ってきたのか。この授業では、「負の記憶」を語ること、聞くこと、そして継承することに着目して、現代社会のあり様を考えることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：How have people collectively faced memories that generally involve negative emotions, such as wars, disasters, and discrimination (so-called ``negative memories'')? The purpose of this class is to consider the state of modern society by focusing on talking about, listening to, and passing on "negative memories."
5. 学習の到達目標：記憶の継承をめぐる様々な論点を理解し、それらを文化的、政治的、社会的文脈の中に位置づけられるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is for students to understand the various issues surrounding the inheritance of memory and to be able to place them in cultural, political, and social contexts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス——授業の進め方について
 - 2 経験を語ることの社会学(1)
 - 3 経験を語ることの社会学(2)
 - 4 経験を語ることの社会学(3)
 - 5 経験を語ることの社会学(4)
 - 6 経験を語ることの社会学(5)
 - 7 経験を語ることの社会学(6)
 - 8 経験を語ることの社会学(7)
 - 9 経験を語ることの社会学(8)
 - 10 経験を聞くことの社会学(1)
 - 11 経験を聞くことの社会学(2)
 - 12 経験を聞くことの社会学(3)
 - 13 経験を聞くことの社会学(4)
 - 14 経験を聞くことの社会学(5)
 - 15 まとめ——制度化される記憶とその相対化
8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%
9. 教科書および参考書：
 - テキスト：時間ごとに文献を指定します
 - 参考書：
 - (1) 関礼子編, 2023, 『語り継ぐ経験の居場所——排除と構築のオラリティ』新曜社.
 - (2) 石井弓, 2013, 『記憶としての日中戦争——インタビューによる他者理解の可能性』研文出版.
10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：なし

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時. 前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB55308, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods

3. 授業の目的と概要：質的調査手法を実践的に理解し、社会調査の設計から結果の公表までの一連の過程を習得することを目的とする。

社会調査の基本知識・手法を学び、フィールドワーク（聞き取り調査、参与観察、資料収集など）をおこなう。調査データを整理し分析することを通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to gain a practical understanding of qualitative research methods and to master the series of processes from social research design to publication of results. In this class, students learn the basic knowledge and methods of social research, conduct fieldwork (interviews, participant observation, data collection, etc.)

5. 学習の到達目標：調査設計、調査データの収集と分析を通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this class is to acquire the ability to conduct qualitative research by organizing and analyzing research data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス——社会調査と質的調査
- 2 研究倫理と社会調査の設計方法
- 3 質的調査の方法(1)
- 4 質的調査の方法(2)
- 5 質的調査の方法(3)
- 6 質的調査の方法(4)
- 7 質的調査の方法(5)
- 8 調査テーマの検討(1)
- 9 調査テーマの検討(2)
- 10 調査テーマの検討(3)
- 11 先行研究と調査対象の検討
- 12 予備調査
- 13 問いの設定と調査項目の検討(1)
- 14 問いの設定と調査項目の検討(2)
- 15 調査依頼の作成

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50 %、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法』有斐閣.

蘭由岐子, 2017, 『「病いの経験」を聞き取る [新版] ——ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院.

10. 授業時間外学習：この授業は 4-5 人からなるグループに分かれて調査をおこなう。授業時間には各グループからの報告をおこなってもらうため、グループごとに時間外の作業をおこなうことになる。具体的には、各段階での課題の検討や、必要な準備などである。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

後期の社会学実習と連続して履修してください。

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：後期 金曜日 3講時, 後期 金曜日 4講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：青木 聡子

コード：LB65308, **科目ナンバリング：**LHM-SOC303J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods 2

3. 授業の目的と概要：質的調査手法を実践的に理解し、社会調査の設計から結果の公表までの一連の過程を習得することを目的とする。

社会調査の基本知識・手法を学び、フィールドワーク（聞き取り調査、参与観察、資料収集など）をおこなう。調査データを整理し分析することを通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to gain a practical understanding of qualitative research methods and to master the series of processes from social research design to publication of results. In this class, students learn the basic knowledge and methods of social research, conduct fieldwork (interviews, participant observation, data collection, etc.)

5. 学習の到達目標：調査設計、調査データの収集と分析を通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this class is to acquire the ability to conduct qualitative research by organizing and analyzing research data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス—調査倫理の説明、聞き取り調査のシミュレーションなど
- 2 データ収集(1) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 3 データ収集(2) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 4 データ収集(3) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 5 データ収集(4) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 6 分析方針の検討
- 7 調査結果の整理、分析(1)
- 8 調査結果の整理、分析(2)
- 9 調査結果の整理、分析(3)
- 10 追加調査の実施
- 11 調査報告書の作成(1)
- 12 調査報告書の作成(2)
- 13 調査報告書の作成(3)
- 14 調査報告書の作成(4)
- 15 調査報告会 (口頭発表)

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50 %、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法』有斐閣.

蘭由岐子, 2017, 『「病いの経験」を聞き取る [新版] ——ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院.

10. 授業時間外学習：この授業は 4-5 人からなるグループに分かれて調査をおこなう。授業時間には各グループからの報告をおこなってもらうため、グループごとに時間外の作業をおこなうことになる。具体的には、各段階での課題の検討や、必要な準備などである。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

前期の社会学実習（社会調査実習）とあわせて履修してください。